

# 財務省貿易統計等から見た 新潟県の対ロシア貿易の状況

ERINA 経済交流部長

安達祐司

2016年から2018年の財務省貿易統計（通関統計）を基に、日本全体の対ロシア貿易の概況、その中で新潟県の対ロシア貿易の状況や位置付け、そして比較の観点から隣接する富山県の対ロシア貿易の状況をまとめたので報告する。本稿では、財務省貿易統計のデータを基に、表で整理したほか、対前年比やシェア等を算出した数値を追記している。

なお、本稿に記載している新潟港・直江津港の通関額・量が新潟県の対ロシア貿易（特に輸出）の全体を表している訳ではない。新潟県で生産されている製品や消費される化石燃料等の天然資源を除く物資の一部は東京港や横浜港等を経由して輸出入されているはずであり、また、他県で生産・消費される製品・物資の一部も新潟港・直江津港を経由していると推測される。これらの貿易額・量については財務省貿易統計では把握できない。これは富山県港湾についても同様である。ただ、本稿により新潟県や富山県の対ロシア貿易の傾向はある程度把握できると考える。

さらに、国際海上コンテナ貨物については、国土交通省が昨年（2018年）11月に「平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査」を実施し、本年3月に調査結果を公表しているため、新潟県や富山県の対ロシア貿易の傾向を補足するデータとして、その一部も引用する。

## 1. 2016～2018年の日ロ貿易全体

(1) まず、2016年から2018年の日本全体の対ロシア貿易の総額を表1に記す。

ア 2016～2018年は輸出入とも増加しているが、日本の大幅な輸入超過が常態

表1 2016～2018年の日本の対ロシア輸出入額（単位：百万円）

	2016年	2017年	対前年比	2018年	対前年比
輸 出	554,661	673,725	121.5%	805,472	119.6%
輸 入	1,227,315	1,553,873	126.6%	1,722,684	110.9%
合 計	1,781,976	2,227,598	125.0%	2,528,156	113.5%

化している。  
イ 2018年における日本全体の貿易総額に占める対ロシア貿易額は以下の通り。

- 総輸出額81兆4787億5300万円：  
対ロシア輸出額8054億7200万（0.99%）
- 総輸入額82兆7033億400万円：  
対ロシア輸入額1兆7226億8400万円（2.08%）

(2) 2018年における主な輸出入品目・金額・割合・2017年との比較を示す。

ア 2018年の輸出は8054億7200万円。対前年比19.6%増。

《主な輸出品》

- ①機械類・輸送用機械：  
約6571億3000万円（81.6%）<sup>1</sup>  
うち、乗用車：約3310億8700万円（41.1%）  
うち、中古車：約487億2600万円（6.0%）

- ②原料別製品：  
約710億7200万円（8.8%）  
うち、タイヤ等ゴム製品：  
約429億6000万円（5.3%）

- ③雑製品：約290億6600万円（3.6%）

イ 2018年の輸入は1兆7226億8400万円。対前年比10.9%増。

《主な輸入品》

- ①鉱物性燃料：  
約1兆1902億4200万円（69.1%）  
うち、石油・同製品：  
約5684億5400万円（33.0%）  
うち、LNG：約3580億3200万円

- （20.8%）  
うち、石炭：約2637億5500万円（15.3%）

- ②原料別製品：  
約2991億4900万円（17.4%）  
うち、アルミ等非鉄：  
約2576億8900万円（15.0%）

- ③食料品・飲料：  
約1450億1700万円（8.4%）

ウ 2018年の輸出入合計額は2兆5281億5600万円。対前年比13.5%増。

エ 2017年→2018年の伸び率は、2016年→2017年の伸び率より鈍化。

## 2. 新潟県の対ロシア貿易の状況

(1) 2016～2018年の新潟港・直江津港の全体概況及び全体における対ロシア貿易の位置付けを表2～7に示す。

ア 新潟港

- ①2018年の対ロシア輸出額は29億4000万円。新潟港全体の輸出額1210億4100万円の2.4%。金額上の国別ランクでは、ロシアは11位（表3）。
- ②2018年の対ロシア輸入額は331億2200万円。新潟港全体の輸入額5362億1800万円の6.2%。金額上の国別ランクでは、ロシアは5位（表4）。
- ③2016～2018年の対ロシア輸出額は年々増加。対ロシア輸入額は2018年において対前年比約18%の減少。
- ④新潟港全体、対ロシア貿易とも輸入

<sup>1</sup> (%)は、輸出入額全体に対する割合を示す。

表2 2016～2018年の新潟港全体及び対ロシア輸出入額(単位:百万円)

		2016年	2017年	対前年	2018年	対前年
輸出	全 体	113,944	119,472	104.9%	121,041	101.3%
	ロシア	1,861 (1.6%) <sup>1</sup>	2,468 (2.1%)	132.6%	2,940 (2.4%)	119.1%
輸入	全 体	431,393	468,553	108.6%	536,218	114.4%
	ロシア	20,522 (4.8%)	40,285 (8.6%)	196.3%	33,122 (6.2%)	82.2%
合計	全 体	545,337	588,025	107.8%	657,259	111.8%
	ロシア	22,383 (4.1%)	42,753 (7.3%)	191.0%	36,062 (5.5%)	84.3%

注1:対ロシア輸出入額の(%)は、新潟港全体の輸出入額に占める割合を示す。

超過の状態。

## イ 直江津港

①2016～2018年の対ロシア輸出額はほぼゼロ(表5)。2018年の直江津港全体の輸出額は、462億1900万円(国別ランク表6)。

②2018年の対ロシア輸入額は283億8100万円。直江津港全体の輸入額1971億7900万円の14.4%。金額

表3 2018年の新潟港の国別輸出ランキング(単位:百万円)

順位	国・地域名	金額	割合(%)
1	中国	26,510	21.9
2	韓国	25,997	21.5
3	米国	10,361	8.6
4	台湾	10,356	8.6
5	ベトナム	5,708	4.7
6	フィリピン	5,051	4.2
7	タイ	4,668	3.9
8	香港	4,469	3.7
9	インド	3,738	3.1
10	マレーシア	3,350	2.8
11	ロシア	2,940	2.4
12	インドネシア	2,215	1.8
13	ドイツ	2,174	1.8
	そ の 他	13,504	11.0
	合 計	121,041	100.0

表4 2018年の新潟港の国別輸入ランキング(単位:百万円)

順位	国・地域名	金額	割合(%)
1	中国	159,355	29.7
2	マレーシア	62,197	11.6
3	オーストラリア	60,196	11.2
4	カタール	34,873	6.5
5	ロシア	33,122	6.2
6	米国	32,816	6.1
7	韓国	27,644	5.2
	そ の 他	126,015	23.5
	合 計	536,218	100.0

表5 2016～2018年の直江津港全体及び対ロシア輸出入額(単位:百万円)

		2016年	2017年	対前年	2018年	対前年
輸出	全 体	39,173	43,433	110.9%	46,219	106.4%
	ロシア	0	6 (0.01%)	-	0	-
輸入	全 体	133,647	168,432	126.0%	197,179	117.1%
	ロシア	23,843 (17.8%) <sup>1</sup>	31,445 (18.7%)	131.9%	28,382 (14.4%)	90.3%
合計	全 体	172,820	211,865	122.6%	243,398	114.9%
	ロシア	23,843 (13.8%)	31,451 (14.8%)	131.9%	28,381 (11.7%)	90.2%

注1:対ロシア輸出入額の(%)は、直江津港全体の輸出入額に占める割合を示す。

表6 2018年の直江津港の国別輸出ランキング(単位:百万円)

順位	国・地域名	金額	割合(%)
1	韓国	9,812	21.2
2	ドイツ	6,403	13.9
3	中国	6,316	13.7
4	米国	4,635	10.0
5	インド	4,126	8.9
6	インドネシア	1,913	4.1
7	タイ	1,304	2.8
8	ベトナム	1,280	2.7
9	フィリピン	1,210	2.6
10	オランダ	1,148	2.5
11	マレーシア	1,009	2.2
	そ の 他	7,063	15.3
	合 計	46,219	100.0

表7 2018年の直江津港の国別輸入ランキング(単位:百万円)

順位	国・地域名	金額	割合(%)
1	カタール	47,529	24.1
2	オーストラリア	34,917	17.7
3	ロシア	28,382	14.4
4	米国	17,445	8.8
5	中国	16,823	8.5
6	インドネシア	8,248	4.2
7	ナイジェリア	6,178	3.1
8	フランス	4,749	2.4
9	トリニダード・トバゴ	4,625	2.4
10	シンガポール	3,519	1.8
	そ の 他	24,764	12.6
	合 計	197,179	100.0

上の国別ランクでは、ロシアは第3位(表7)。

- ③2018年の対ロシア輸入額は、対前年比約10%の減少。
- ④直江津港全体、対ロシア貿易とも輸入超過の状態。

(2) 2018年の新潟港の対ロシア貿易における主な輸出入品・金額等を記す。

ア 2018年の対ロシア輸出額は29億4000万円。主な輸出品を表8に示す。

- ①機械類・輸送用機器が23億9700万円と全体の8割以上を占める。このうち5割以上を自動車用部品や中古車などの輸送用機器が占める。なお、中古車輸出については、本稿の第5項で補足する。  
機械類・輸送用機器:  
約23億9700万円(81.6%)  
うち、輸送用機器:約13億7800万円  
うち、自動車部分品:約3億4300万円

うち、中古車:約2億9800万円

- ②次に多いのは化学製品で約1億8500万円と全体の6.3%を占める。このうち5割以上を精油・香料及び化粧品類(約1億600万円)が占める。
  - ③食料品・飲料は約1億500万円(3.6%)で、金額が多い品目としてはコーヒー・茶・ココア・香辛料類<sup>2</sup>約6600万円である。
  - ④原料別製品とは、ゴム製品、紙類、繊維製品、金属製品等である。
  - ⑤鉱物性燃料は石油・同製品で、多いのは潤滑油・グリスである。
- イ 2018年の対ロシア輸入額は331億2200万円。主な輸入品を表9に示す。
- ①LNGが全体の約80%を占め、次に木材及びパルプ合わせて約15%を占めるように、鉱物性燃料や原材料の輸入が大半である。新潟県のLNG輸入状況については、本稿の

第6項で補足する。

- ②4番目に多い木製品は、合板・ウッドパネルや木製建具及び建築用木工品が大半である。
  - ③第5位の食料品は、5割以上を魚介類及び同調製品が占めている。
  - ④化学製品のほとんどが肥料である。
- (3) 2018年の直江津港の対ロシア貿易における主な輸出入品・金額等を記す。
- ア 2018年の対ロシア輸出はなし。
- イ 2018年の対ロシア輸入額は、283億8200万円。主な輸入品を表10に示す。
- ①新潟港と同様、LNGが主要貨物で全体の6割弱を占める。
  - ②2番目に多いのは石炭で3割強を占める。
  - ③アルミニウム・同合金が第3位となっている。

### 3. 富山県の対ロシア貿易の状況

新潟県との比較の観点から富山県の港湾(伏木港、富山港)における対ロシア貿易の状況を記す。

(1) 2016~2018年の全体概況を表11に示す。

ア 伏木港

- ①2018年の対ロシア輸出額は173億6200万円。伏木港全体の輸出額1069億9900万円の16.2%を占める。対ロシア輸出額は中国、韓国に次いで第3位。
  - ②2018年の対ロシア輸入額は123億1500万円。伏木港全体の輸入額1946億5100万円の6.3%を占める。対ロシア輸入額は中国、韓国、米国に次いで第4位。
  - ③ロシアは輸出入とも伏木港にとって主要な貿易相手国。
  - ④伏木港全体では輸入超過であるが、対ロシア貿易については、2017年、2018年において輸出超過となっている。
  - ⑤新潟港との比較では、対ロシア輸出額で新潟港の約6倍。対ロシア輸入額では新潟港が約2.7倍。
- イ 富山港
- ①2018年の対ロシア輸出額は179億

表8 2018年の新潟港の主な対ロシア輸出品(単位:百万円)

品目	金額	割合(%)
機械類・輸送用機器	2,397	81.5
化学製品	185	6.3
特殊取扱品(再輸出品)	181	6.2
食料品・飲料	105	3.6
原料別製品	53	1.8
鉱物性燃料	14	0.5
その他	5	0.2
合計	2,940	100.0

表9 2018年の新潟港の主な対ロシア輸入品(単位:百万円)

品目	金額	割合(%)
鉱物性燃料(LNG)	26,799	80.9
原材料(木材)	3,469	10.5
原材料(パルプ)	1,523	4.6
原料別製品(木製品)	800	2.4
食料品	256	0.8
鉱物性燃料(石炭)	139	0.4
化学製品	126	0.4
その他	10	0.0

表10 2018年の直江津港の主な対ロシア輸入品(単位:百万円)

品目	金額	割合(%)
鉱物性燃料(LNG)	16,646	58.6
鉱物性燃料(石炭)	9,706	34.2
原料別製品(アルミニウム・同合金)	1,494	5.3
原材料(木材)	523	1.8
その他	13	0.0
合計	28,382	100.0

<sup>2</sup> コーヒー・茶・ココア・香辛料類は、通関品目上食料品に分類される。

表11 2016～2018年の伏木港・富山港全体及び対ロシア輸出入額(単位:百万円)

		2016年		2017年		2018年	
伏木港	輸出	全 体	101,935	108,014	106,999		
		ロシア	12,319 (12.1%) <sup>1</sup>	17,561 (16.3%)	17,362 (16.2%)		
	輸入	全 体	135,780	160,784	194,651		
		ロシア	15,310 (11.3%)	17,097 (10.6%)	12,315 (6.3%)		
富山港	輸出	全 体	49,889	62,156	61,474		
		ロシア	6,237 (12.5%)	14,065 (22.6%)	17,901 (29.1%)		
	輸入	全 体	6,238	5,860	7,427		
		ロシア	757 (12.1%)	703 (12.0%)	746 (10.0%)		
合 計	輸出	全 体	151,824	170,170	168,473		
		ロシア	18,556 (12.2%)	31,626 (18.6%)	35,263 (20.9%)		
	輸入	全 体	142,018	166,644	202,078		
		ロシア	16,067 (11.3%)	17,800 (10.7%)	13,061 (6.5%)		

注1:対ロシア輸出入額の(%)は、伏木港・富山港全体の輸出入額に占める割合を示す。

100万円。富山港全体の輸出額614億7400万円の29%を占める。対ロシア輸出額は第1位。第2位は中国、第3位は韓国。

②2018年の対ロシア輸入額は7億4600万円。富山港全体の輸入額74億2700万円の10%を占める。対ロシア輸入額は中国、米国、韓国、台湾に次いで第5位。

③伏木港と同様、ロシアは輸出入とも富山港にとって主要な貿易相手国。

④富山港においては、対ロシア貿易は大幅な輸出超過。

⑤新潟港との比較では、対ロシア輸出

表12 2018年の伏木港の主な対ロシア輸出品(単位:百万円)

品 目	金 額	割合(%)
機械類・輸送用機器	15,988	92.1
特殊取扱品(再輸出品)	445	2.6
化学製品	438	2.5
原料別製品	377	2.2
食料品・飲料	66	0.4
雑製品	42	0.2
その他	6	0.0
合 計	17,362	100.0

表13 2018年の伏木港の主な対ロシア輸入品(単位:百万円)

品 目	金 額	割合(%)
原料別製品	6,356	51.6
原材料(木材)	4,729	38.4
鉱物性燃料(石炭)	1,057	8.6
化学製品	139	1.1
その他	34	0.3
合 計	33,122	100.0

表14 2018年の富山港の主な対ロシア輸出品(単位:百万円)

品 目	金 額	割合(%)
機械類・輸送用機器	17,454	97.5
特殊取扱品(再輸出品)	408	2.3
その他	39	0.2
合計	17,362	100.0

額で新潟港の約6倍。対ロシア輸入額で新潟港が約44倍。

(2)2018年の伏木港の主な対ロシア貿易における主な輸出入品・金額を記す。

ア 2018年の対ロシア輸出額は173億6200万円。主な輸出品を表12に示す。

①機械類・輸送用機器が全体の9割以上を占める。中古車や自動車用部品などを中心とした輸送用機器が大宗となっている。

機械類・輸送用機器:

約159億8800万円(92.1%)

うち、輸送用機器:約140億5800万円

うち、中古車:約104億9100万円

うち、自動車部品:約12億2500万円

②次に、特殊取扱品(再輸出品)が約4億4500万円(2.8%)、化学製品が

約4億3800万円(2.7%)、原料別製品が約3億7700万円(2.2%)と続く。

イ 2018年の対ロシア輸入:123億1500万円。主な輸入品を表13に示す。

①原料別製品が全体の5割以上を占めており、そのほとんどがアルミニウム・同合金で、約59億9600万円(48.7%)となっている。

②次に木材が47億2900万円(38.4%)、石炭が10億5700万円(8.6%)と上位3品目で全体の9割以上を占める。

(3)2018年の富山港の対ロシア貿易における主な輸出入品・金額を示す。

ア 2018年の対ロシア輸出額は179億100万円。主な輸出品を表14に示す。

主な輸出品は機械類・輸送用機器で全体の約98%を占め、中古車を中心に

輸送用機器がその大半となっている。

機械類・輸送用機器:

約174億5400万円(97.5%)

うち、輸送用機器:約157億7700万円

うち、中古車:約136億2700万円

イ 2018年の対ロシア輸入額は7億4500万円。そのうち木材が約7億1500万円(96.0%)で大宗貨物となっている。

#### 4. 平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査

国土交通省では、5年に1度、日本発着の国際海上コンテナ貨物の流動を把握することにより、効率的な物流体系を構築するための港湾政策の企画立案、港湾整備計画の検討等に活用することを目的に



「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」を実施している。直近の調査は、昨年（2018年）11月1日から30日の1カ月間実施され、本年3月結果が公表された。本稿では、新潟県や富山県の対ロシア貿易の状況を補足するデータとして、調査結果の一部を引用する。なお、引用にあたっては、生産地や消費地の都道府県別数値のうち小さい値を「その他」としてまとめ、ランキング表で整理するなど一部データを加工している。

また、国際海上コンテナ貨物を輸送する外貿定期コンテナ航路については、2018年11月時点で、新潟港には釜山港に寄港する航路が週8便（うち2便については中国諸港にも寄港）、中国諸港に寄港する航路が週1便、直江津港には釜山港に寄港する航路が週2便（うち1便は中国諸港にも寄港）就航していた<sup>3</sup>。同じく伏木富山港<sup>4</sup>については、ロシア極東のヴォストーチヌイ港、ウラジオストク港に寄港する航路が月2便、釜山港に寄港する航路が週4便（うち2便は中国諸港にも寄港）、中国諸港に寄港する航路が週1便就航していた。

### (1) 生産地別船積港別貨物量

新潟港、直江津港の2018年11月1カ月の輸出貨物量を表15、16に記す。

表15により、新潟県のほか山形県や石川県等で生産された貨物が新潟港から輸出されたことがわかる。また、表16により、直江津港からは、新潟県のほか長野県、群馬県の貨物が輸出されていることがわかる。

### (2) 消費地別船卸港別貨物量

新潟港、直江津港の2018年11月1カ月の輸入貨物量を表17、18に記す。

表17により、新潟港で輸入された貨物がどの消費地に向けて輸送されたかがわかる。また、表18により、直江津港で輸入された貨物が新潟県より長野県により多く輸送されたことがわかる。

### (3) 伏木富山港の輸出入貨物量

伏木富山港における2018年11月1カ月の生産地別船積港貨物量（輸出）及び消費地別船卸港別貨物量（輸入）を表19、20に記す。

表15 新潟港・輸出（単位：トン）

順位	生産地	貨物量
1	新潟県	67,995
2	山形県	631
3	石川県	239
4	群馬県	213
	その他	179
合計		69,257

表16 直江津港・輸出（単位：トン）

順位	生産地	貨物量
1	新潟県	7,259
2	長野県	1,355
3	群馬県	23
合計		8,637

表17 新潟港・輸入（単位：トン）

順位	消費地	貨物量
1	新潟県	134,410
2	福島県	8,862
3	山形県	1,521
4	宮城県	929
5	岩手県	577
6	群馬県	408
7	富山県	393
8	長野県	382
9	東京都	326
	その他	603
合計		148,411

表18 直江津港・輸入（単位：トン）

順位	消費地	貨物量
1	長野県	22,288
2	新潟県	15,216
3	群馬県	226
合計		37,730

表19 伏木富山港・輸出（単位：トン）

順位	生産地	貨物量
1	富山県	23,854
2	新潟県	1,494
3	石川県	264
4	岐阜県	174
	その他	172
合計		25,958

表20 伏木富山港・輸入（単位：トン）

順位	消費地	貨物量
1	富山県	27,466
2	岐阜県	509
3	福井県	330
4	石川県	286
	その他	191
合計		28,782

## (4) 対ロシア輸出貨物量の状況

### ア 生産地別仕向国別貨物量

・新潟県で生産され、ロシア向けに輸出された貨物量:1881トン。これは表15で示した新潟県で生産された輸出貨物量6万7995トンの2.8%。

・富山県で生産され、ロシア向けに輸出された貨物量:1853トン。これは表19で示した富山県で生産された輸出貨物量2万3854トンの7.8%。

### イ 船積港別仕向国別貨物量

・新潟港で船積みされ、ロシアに輸出された貨物量:1667トン。

・伏木富山港で船積みされ、ロシアに輸出された貨物量:1285トン。

### ウ 船積港別仕向港別最終船卸港別貨物量

・新潟港から釜山港經由ロシア極東港湾向けに輸出された貨物量:1642トン。

・伏木富山港から直接ロシア極東港湾向けに輸出された貨物量:780トン。

・同港から釜山港經由ロシア極東港湾向けに輸出された貨物量:463トン。

エ 上記ア～ウにより、2018年11月の1カ月に限ったことではあるが、次のことがわかる。

①対ロシア輸出コンテナ貨物量については、新潟港が伏木富山港を上回っていること。

②新潟県を生産地とするロシア向け貨物量のうち、9割弱が新潟港から釜山港經由でロシア極東港湾に輸出されたこと。

オ 上記(1)の表15及び(4)のア～ウのうち、新潟港利用の新潟県のロシア向け輸出コンテナ貨物の相関を図示すると図1のようになる。

## (5) 対ロシア輸入貨物量の状況

### ア 消費地別原産国別貨物量

・ロシアを原産国とし新潟県を消費地として輸入された貨物量:6469トン。これは表17、18で示した新潟県を消費地とする輸入貨物量14万9626トン（134,410+15,216）の4.3%。

・ロシアを原産国とし富山県を消費地として輸入された貨物量:3352トン。これは

<sup>3</sup> 詳細は新潟県ホームページ（<http://www.pref.niigata.lg.jp>）参照。

<sup>4</sup> 大阪税関は伏木港及び富山港を別の港としてそれぞれに支署を置いて管轄し、通関業務を行っているが、港湾管理者である富山県及び国土交通省は「伏木富山港」という一つの港として管理・管轄している。詳細は富山県ホームページ（<http://www.pref.toyama.jp>）参照。

図1 生産地・新潟県のロシア向け輸出貨物量の相関（新潟港利用）

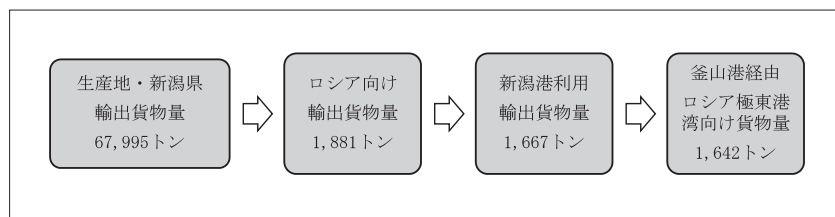


図2 消費地・新潟県のロシアからの輸入貨物量の相関（新潟港利用）

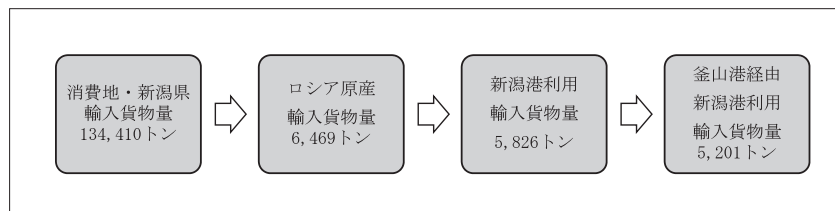


表20で示した富山県を消費地とする輸入貨物量27466トンの12.2%。

## イ 船卸港別原産国別貨物量

- ロシアを原産国とし新潟港に輸入された貨物量:5826トン。
- ロシアを原産国とし直江津港に輸入された貨物量:702トン。
- ロシアを原産国とし伏木富山港に輸入された貨物量:2874トン。

## ウ 船卸港別仕出港別最初船積港別貨物量

- ロシア極東港湾から釜山港経由新潟港に輸入された貨物量:5201トン。
- ロシア極東港湾から釜山港経由直江津港に輸入された貨物量:702トン。
- ロシア極東港湾から直接伏木富山港に輸入された貨物量:1055トン。
- ロシア極東港湾から釜山港経由伏木富山港に輸入された貨物量:1623トン。

## エ 輸出貨物と同様、上記ア～ウにより次のことが分かる。

- ①新潟県を消費地としロシアを原産国とする輸入貨物は、ほぼ新潟港と直江津港に釜山港経由で輸入されていること。
- ②ロシアからの輸入コンテナ貨物量についても新潟港が伏木富山港を上回っていること。

## オ 輸出貨物と同様、上記(2)の表17及び(5)のA～ウのうち、新潟港利用の新

潟県へのロシアからの輸入コンテナ貨物の相関を図示すると図2のようになる。

## (6) 2018年11月の財務省貿易統計

「平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査」と対比する観点から、2018年11月における新潟港・直江津港<sup>5</sup>、伏木港・富山港の対ロシア輸出入に関する財務省貿易統計値を表21、22に示す。なお、現在、公表されている財務省貿易統計では、税関別、対象国別に直接的に輸出入コンテナ貨物の通関額を示すデータはない。

表21によると、2018年11月の伏木港・富

表21 新潟港、伏木港・富山港の2018年11月の対ロシア輸出額（単位：千円）

品目	新潟港	伏木港	富山港
食料品・飲料	19,552	3,546	-
化学製品	19,565	4,135	-
原料別製品	1,152	34,569	-
機械類・輸送用機器	342,524	1,339,442	1,361,241
雑製品	-	2,119	-
特殊取扱品（再輸出品）	13,207	40,204	42,828
合計	396,000	1,424,015	1,404,069

表22 新潟港・直江津港、伏木港・富山港の2018年11月の対ロシア輸入額（単位：千円）

品目	新潟港	直江津港	伏木港	富山港
食料品	6,289	-	3,515	2,904
原材料	380,556	18,210	318,921	48,292
鉱物性燃料	-	1,115,488 <sup>6</sup>	-	-
化学製品	29,520	-	39,391	-
原料別製品	137,206	72,249	64,594	-
機械類・輸送用機器	593	-	-	-
特殊取扱品（再輸入品）	1,090	-	489	354
合計	555,254	1,205,947	426,910	51,550

<sup>5</sup> 2018年における直江津港の対ロシア輸出貨物はない。

<sup>6</sup> 直江津港における鉱物性燃料は石炭。また、同港における原料別製品はアルミニウム・合金。

山港の対ロシア輸出額合計は、新潟港の輸出額の約7倍であるが、「平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査」による数値(4-(4)-イ)から、伏木港・富山港の対ロシア輸出貨物の大半(特に太宗を占める自動車を中心とする機械類・輸送用機器)はコンテナ貨物ではないと推測される。

## 5. 2016～2018年の対ロシア中古車輸出の状況

富山県港湾において対ロシア輸出のメインカーゴとなっている中古車の輸出について、新潟港と比較する(表23)。数値は財務省貿易統計による。なお、伏木港・富山港にはロシア極東港湾との間に自動車専用の RORO 船航路が月13便就航している。

- (1) 2018年では、台数において伏木港は新潟港の30倍、金額において35倍。富山港については、台数において新潟港の35倍、金額において45倍。
- (2) 2016～2018年において、新潟港は年々減少。伏木港は横這い～微増、富山港は年々かなり増加。
- (3) 平均単価も新潟港より富山県港湾の方が高く、新潟港では横這いだが、富山県港湾では年々上昇している。

表23 2016～2018年の新潟・伏木港・富山港の中古車輸出(単位:百万円)

		2016年	2017年	2018年
新潟港	台数	1,105	866	659
	金額	412	412	298
	平均単価 <sup>7</sup>	372	475	453
伏木港	台数	17,494	20,625	19,387
	金額	8,408	11,044	10,491
	平均単価	481	535	541
富山港	台数	10,963	19,283	23,540
	金額	4,543	10,380	13,627
	平均単価	414	538	579
伏木港・富山港 合計	台数	28,457	39,908	42,927
	金額	12,951	21,424	24,117

## 6. 新潟県のLNG輸入の状況

最後に、新潟港、直江津港での対ロシア輸入において太宗貨物となっている

LNGについて、日本全体の輸入概況と新潟港、直江津港の状況、日本全体での位置付けを記載する。なお、新潟港に輸入されたLNGは、日本海エル・エ

表24 2016～2018年のLNG輸入量の推移(単位:千トン)

	2016年	2017年	2018年
日本全体	83,840	83,632	82,852
うちロシア	7,315	7,262	6,673
新潟港全体	3,921	3,717	3,647
うちロシア	389	775	515
直江津港全体	2,176	2,276	2,414
うちロシア	386	388	322
新潟港+直江津港	6,097	5,993	6,061
うちロシア	775	1,163	837

表25 2018年の日本の主なLNG輸入先

順位	輸入先	輸入量(千トン)	シェア(%)
1	オーストラリア	28,702	34.6
2	マレーシア	11,266	13.6
3	カタール	9,923	12.0
4	ロシア	6,673	8.1
5	インドネシア	5,133	6.2
6	アラブ首長国連邦	4,977	6.0
7	ブルネイ	4,182	5.0

表26 2018年の新潟港の主なLNG輸入先

順位	輸入先	輸入量(千トン)	シェア(%)
1	マレーシア	994	27.3
2	オーストラリア	964	26.4
3	カタール	597	16.4
4	ロシア	515	14.1
5	インドネシア	316	8.7

表27 2018年の直江津港の主なLNG輸入先

順位	輸入先	輸入量(千トン)	シェア(%)
1	カタール	796	33.0
2	オーストラリア	579	24.0
3	ロシア	322	13.4
4	米国	141	5.8
5	インドネシア	129	5.3
6	ナイジェリア	120	5.0

ヌ・ジー(株)が受入れ、東北電力東新潟火力発電所に発電燃料として供給されるほか、新潟—仙台間のパイプラインを通じて新仙台火力発電所に供給されている。また、直江津港に輸入されたLNGは、(株)JERA 上越火力発電所に供給されているほか、国際石油開発帝石(株)のLNG受入基地を通じて、パイプラインで関東甲信地方に供給されている。更に、近い将来、(株)JERA の発電所に隣接して建設が予定されている東北電力の火力発電所でも利用が見込まれている。

(1) 2016～2018年における日本全体、新潟港・直江津港全体、そのうちロシアからのLNG輸入量の推移を表24に示す。

(2) 2018年の日本全体のLNG輸入量は、8285万2千トン、4兆7389億3700万円。主な輸入先を表25に記す。ロシアは量で全体の8%を占め、第4位の輸入先となっている。

(3) 2018年の新潟県(新潟港、直江津港)のLNG輸入量を記す。

ア 新潟県全体のLNG輸入量

全体:新潟港(364万7千トン)+直江津港(241万4千トン)=606万1千トン。

これは、日本全体輸入量の7.3%に相当する。

ロシアからの輸入量:新潟港(51万5千トン)+直江津港(32万2千トン)=83万7千トン。これは、日本全体のロシアからの輸入量の12.5%に相当する。

イ 新潟港のLNG輸入量は、364万7千トンで日本全体輸入量の4.4%を占める。主な輸入先を表26に記す。表26に示す通り、新潟港におけるロシアからのLNG輸入量は51万5千トンで全体の14%を占め第4位。日本全体のロシアからの輸入量667万3千トンの7.7%に相当する。

ウ 直江津港のLNG輸入量は、241万4千トンで日本全体輸入量の2.9%を占める。主な輸入先を表27に記す。表27に示す通り、直江津港におけるロシアからのLNG輸入量は32万2千トンで、全体の13%を占め第3位。日本全体のロシアからの輸入量667万3千トンの4.8%に相当する。

<sup>7</sup> 平均単価はERINAで計算、単位は千円。